

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

第2回定時社員総会開催される

ー プレカットCAD資格者認定がスタート ー

当協会は、第2回定時社員総会を平成24年6月13日（水）に東京都千代田区麴町六丁目のスクワール麴町において、多数の来賓、会員、報道関係者の出席のもとで開催しました。

櫻井会長は、冒頭の挨拶の中で、「昨年は東日本大震災、原発事故という未曾有の大災害に見舞われ、国民生活に大きな影響がもたらされた。我が国経済は、不安定な欧州経済の影響で円高が進行し、輸出産業を中心として設備投資意欲の減退や企業収益の減少が進み、景気の低迷が続いた。このため、23年度の新設住宅着工戸数は84万1千戸で僅かながら増加したが、将来的には不安を与える状況が続いている。我が国の森林資源は、スギ等を中心として供給量は増大しつつあるが、住宅着工の低迷等の影響により、木材需要の減少や価格の低迷が続いている。このような中で国産材の自給率50%を目指し森林・林業再生プランの実現に向けた各般の施策を展開され、また、住宅分野においては、長期優良住宅の普及促進、住宅エコポイントの実施等の施策とともに、公共建築物等への木材利用の促進が図られ、今後、木造建築物の普及促進が一層図られることが期待されている。

プレカット加工業においては、プレカット加工設備の生産性向上に努めた結果、総体としての生産能力は拡大したが、加工単価の下落低迷等の厳しい状況のなかで、消費者からは住宅の安全・安心を求める声がより一層高まっていることも事実であり、また、住宅以外の木造建築物に対する部材加工の取り組みも課題になっている。

当協会は、本年度においては、プレカット加工業を取り巻く環境の変化を踏まえ、会員に対する技術、業務支援の一環として、品質の確かなプレカット部材の供給とプレカット加工CADを活用した各種の木造住宅建築に関するサービスの支援とともに、CADオペレーター資格認定に向けた活動を行っていく所存である。ご来賓をはじめ関係者の皆様には、今後とも当協会をよろしくご指導ご鞭撻を賜るようお願い申し上げます。」と、厳しい環境の中で協会活動の活性化に向けた決意が述べられました。



林野庁木材産業課 瀧上和之課長



櫻井会長

会長挨拶に続いて、来賓を代表して、林野庁木材産業課 瀧上和之課長からは、「まず、東日本大震災の復興が重要な課題になって

いるが、国土緑化推進機構においては、被災地の陸前高田で津波の被害から唯一1本残ったマツをモチーフとしたチャリティーグッズを、復興のための寄付をされた方々に差し上げるという、被害地対象の用途限定募金を行っている。この募金を基に、林業、木材産業関係者に協力していただき、被害地で工場の整備等を行い地元で雇用の場を創設しようということで、復興に向けてがんばっていかうということを進めたい。

また、最近、ヒノキを中心に木材価格が下落している。季節的な変動とともに、いろいろな原因が考えられるが、それに対する対策では、やはり、需要の拡大が一番重要な課題である。現在、山側から円滑に供給する仕組み作りをしてきているが、これとともに、車の両輪として木材需要を拡大することが大切である。このため、住宅分野で、木材をもっと使ってもらう取り組みをしていくことが重要である。

さらに、公共建築物等木材利用促進法の木材利用基本方針の策定は、都道府県レベルではすべて策定されており、今後、市町村レベルでの策定が課題である。本年度は、住宅以外の分野で、木が使われていることを多くの方々に知っていただき、こんな建築物も木造で可能なんだ。木の使い方はいろいろあるんだ。ということを普及していきたい。

これらを踏まえて、プレカット協会会員が木造建築物を中心として木材利用推進に1年間励んでいただきたい。」と激励の祝辞がありました。



財団法人日本住宅・木材技術センター 岸純夫理事長

また、財団法人日本住宅・木材技術センター 岸純夫理事長からは、「プレカット協会が、加工伏図の作成支援、部材瑕疵保証の実施等に取り組んでおり、さらに、本年度からCAD技術者資格認定に取り組むことは、プレカット業界の発展のために重要であると思う。

住宅業界、木材業界が厳しい環境にあるが、特に、先行きがどうなるか不安であるというお話を各地で聞く。地域材の利用促進と木材生産と住宅産業の連携のため、住木センターでは、何年にもわたり、顔のみえる木材での家づくりを進めてきたが、今回、本年度、国土交通省が、地域型住宅のブランド化事業を立ち上げており、強力な政策手段で行われることについてありがたいと思っている。

木造建築物の世界では、基本的に認証された材料の使用が前提になっている。特に、最近、認証についてのいくつかの問合せが来ている。これらの事案についても、プレカット工場が関与するものであり、これからの木造建築物の普及促進にプレカット加工業の役割は不可欠であるので、地域の住宅産業のためにがんばって欲しい。」と、最近の木造建築物を取り巻く状況をふまえて、プレカット加工業に対して期待が述べられました。

総会の議事では、まず、平成23年度事業報告、収支決算報告等が上程され、原案どおり承認されました。また、平成24年度事業計画、収支予算が報告事項として上程され、了承されました。

総会に引き続き、国土交通省住宅局住宅生産課木造住宅振興室 上森康幹企画専門官による「木造住宅等関連施策行政の動向について」と題して記念講演が行われました。

講演では、まず、住生活基本法と住生活基本計画に基づく住宅政策の枠組みとともに、それに引き続いて、①木造住宅の需給の関する現状として、木造住宅に対するニーズ、担い手の現状、②長期優良住宅、③中古住宅の流通、リフォーム、④公共建築物等における木材利用の取り組み等について解説されました。

また、木造住宅・建築物振興対策として平成24年度予算の概要が説明され、この中で、プレカット加工業においても関連が深い「地域型住宅ブランド化事業」については、重点的に解説されました。60枚のスライドを使用し、1時間強に亘る体系だった講演をいただき会員一同、木造住宅関連施策指向している方向について認識を深める貴重な機会になりました。



国土交通省住宅局住宅生産課木造住宅振興室 上森康幹企画専門官

平成23年 協会会員工場基礎調査結果について(第2回)

一 会員からみたプレカット加工率について 一

平成23年12月末現在の会員工場基礎調査結果に基づき、地域別のプレカット加工率を推定しました。その結果、全国平均では88.0%となりました。会員の皆様には、お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

プレカット加工率(%)	北海道・東北	関東	中部・近畿	中国・四国・九州	全国計
70～74	70				70
75～79	75			78	153
80～84	80、80、80、 80、80、80、 80	80		80、80、80	880
85～89				85	85
90～94	90	90、90、90 90、90	90、90、90、 90、90	92、90、90 90	1,352
95～	95、95、95	95、95、95、 95、	95、95、95、 95、99	95、95	1,334
合計	1,080	910	929	955	3,874
(平均)	(83.1)	(91.0)	(92.9)	(86.8)	(88.0)
[前年平均]	[82.0]	[91.4]	[90.0]	[85.6]	[87.3]

◇簡単なコメント

- 平成23年12月末の会員が推定する地域のプレカット加工率は、全国平均で88.0%と前回調査(平成22年12月末)に比べて0.7ポイントの上昇しました。関東、中部・近畿においては頭打ちの様相が見られますが、長期優良住宅生産等でのプレカット工場の関与等もあって、今後も上昇していくもの見られます。
- 北海道・東北、中国・四国・九州の地域では依然として80%台で推移しています。加工率は上昇していますが、地域によっては、加工率が70%台のところもあり、バラツキが生じています。これは、地域内でのプレカット工場の立地状況、使用部材の種類の違いとともに、伝統的な継ぎ手仕口加工を行う有能な大工技能者が存在している状況もうかがえます。

プレカット業況調査(平成24年5月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 57%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	50	36	14	+36	-40
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	42	47	11	+31	+29
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,300円 (対前回調査+10円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	8	86	6	+2	-14
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	6	86	8	-2	-5
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	42	55	3	+39	+43
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	25	75	0	+25	+14
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	33	50	17	+16	-41
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	33	53	14	+19	+25

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 平成24年2月

◇簡単なコメント

各地のプレカット工場の受注額、収益のDIは、前回調査に比べて、ともにプラスに転じ、夏場にかけて受注増が期待されるなか、加工単価は相変わらず横ばいで推移しており、業況に対する厳しさの一面がうかがわれる。資材入手状況は、総じて容易であり品薄感は見られない。一方、3ヶ月後の受注額、収益についてもプラスで推移すると予測されており、安定した業況が続くことが期待される。

1. 受注額のDIは+36で前回調査時(平成24年2月期)の-40に比べて大きく好転した。また、3ヵ月後の予測も、+31で受注額の増加が続くと期待される。
2. 平均総加工単価は6,300円で3か月前に比べて+10円になった。これを裏付けるように、製品加工単価のDIは+2に留まっており、受注額が増加している中で、加工単価は横ばい傾向が続いている。
3. 一方、資材の入手状況のDIは+39であり、また、3ヶ月後においても+25と予測されている。しばらくは、当用買いが続くと思われる。
4. 3ヶ月前と比べた収益のDIは+16に転じた。また、3ヶ月後の予測は+19であり、今後、夏場にかけて収益の拡大が期待される。